



「不屈」NO.597 付録
石川版 NO. 354
2024年3月15日
治安維持法犠牲者国家賠償
要求同盟石川県本部
〒920-0856
石川県金沢市昭和町5-13
石川県平和と労働会館2F
国民救援会石川県本部気付
TEL・FAX 076-262-3447

民主団体と共産党

震災共同支援センター始動

羽咋市石野町に設置された「能登半島地震被災者共同支援センター」の開所式が2月22日開催され、支援活動が本格始動しました。

同センター責任者の藤野保史前衆議院議員は「被災者の皆さんとともに能登で生きていく希望を切り開いていくために全力を尽くす」と決意を語りました。

井上哲士参院議員、武田良介前参院議員や、北陸信越ブロック5県共産党県委員長、ブロック事務所長、党中央委員会・災対委員会の太田善作責任者が参加し、石川県委員会の秋元邦宏県委員長が開会あいさつを行いました。

事務局は黒梅明(元石川民医連事務局長)氏を責任者とし、中央本部・吉武、宮城県多賀城市元市議・遠藤、福島県福島市元市議・小熊の各氏があたることとなりました。

新婦人県本部、県労連、民医連羽咋診療所の各民主団体からの挨拶があり、被災者・被災地への支援と復旧・復興が訴えられました。

能登半島地震 被災者救援

共同支援センター 開所式



住所 〒925-0026
羽咋市石野町ト13-1

2/22(木) 正午過ぎ

※30分程度、閉会后短時間の内覧会を予定

おさそいあわせて
ぜひ、ご参加ください



日本共産党は、羽咋市に設置された被災者共同支援センターの開所式を、2月22日(木)正午過ぎに開催し、民主団体と協力して支援活動を行ってまいります。本点任者は、藤野保史前衆議院議員です。最前線に身を投じている被災者の方々に、全力を尽くして支援いたします。ご参加のほどは、お申し込みください。

支援物資(提供・支給希望)の相談は、暫定連絡先へ

暫定メール: notosien@gmail.ne.jp
のとしえん

電話は、日本共産党石川県本部に
076-243-2877 田嶋/吉武

いのち・くらしまでも政治 ぐいっしょに

新石川

2024年2月号刊 発行 新石川社 発行所 090-3737-0799
〒920-0856 石川県金沢市昭和町5-13

能登半島地震を体験して

輪島市在住 H・Y (2024.02.27)

令和6年1月1日。能登に住む私達には絶対に忘れられない日となりました。あの日から2か月が経とうとしています。

幸運にも、我が家は屋根も壊れず住める状態でした。電気もほぼ灯っていました。ですから被害がひどい方々から見れば、本当に恵まれていたと思います。ずっと待ち望んでいた水も、先日から使えるようになり、重い水運びから解放されました。でもまだ下水が整備されず大量の消費はできません。風呂や洗濯が不自由です。しかも市全体では、まだまだ水が出ないところが多いようです。

私は、娘の犬を預かっているの、日に何度か散歩をします。一変してしまっただ朝市通り。

まるで戦後の焼け跡のようです。ここで同級生と元同僚が命を落としました。残念なのは、地震だけでなく津波と火事が同時に起きた。もし地震だけなら、次の日でも助けられたかもしれませんが。

朝市通りだけでなく、町全体の風景は一変しました。町のあちこちに倒壊した家屋がいまだに放置されているからです。一つの通りのほとんどの家が全壊、という無残なところもあります。倒れた家屋などの為に通れない道もまだ多く見られます。そして道路。ひどいE割れ、下水管マンホールの突起。陥没したままの状態がずっと続く道もあります。車はいっぱンクするかと心配しながらおそるおそる通っています。

しかし今、全国からたくさんのお援が入り、水道、電気の復旧、道路の修復、倒れた家や瓦礫の片付け、それらが進みつつ

あります。本当にうれいのです。感謝にたえません。

ただ、新たな問題も起きています。自宅避難や2次避難、みなし仮設の方々の所に、ちゃんと情報が届かないこと。また、避難所生活に疲れて危ない住宅に戻った人たちのことです。

そして今、最も気になる事は、それぞれの避難先から、安心して住める場所が確保されるかという事です。行政はこの方たちの声を聞き、あらゆる策を考え実現してほしいです。

災害大国日本！これを誓っている今も震度3の余震が2度もありました。今後、一人一人がもっと防災に関心を持ち、対処できるようならねばなりません。そのためには、学校でも子どもの時から防災教育をしっかり行ってほしいです。また何より国や県、市町村は、住民が安心して住み続けることのできる日本になるように、この能登半島地震の教訓を生かして実行していただきたいと思います。

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

1. 治安維持法体制の復活に反対する
2. 国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
3. 国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

国会請願署名 (6/1~)

2024年3月1日現在
 個人署名 目標 3000 筆
 到達 268 筆
 団体署名 目標 250 筆
 到達 10 筆

会員数 (3月1日現在)

215名 (入3・退0)

「みんなで繋がって前進しましょう」

県本部会長 尾西洋子

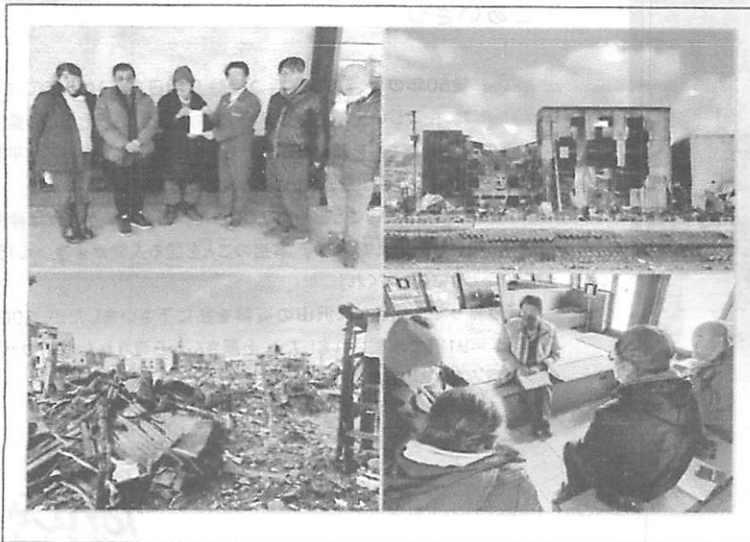
昨年10月、門前の「はまなす」で海をながめながら、奥能登支部が結成されました。暮れには第1回支部会議が輪島で開かれ、私は金沢駅から急行バスで2時間半の道のり、往復5時間弱、5千円を超えるバス代でびっくりです。皆さんの苦勞がわかります。

年頭の1月1日、奥能登の珠洲の高屋を震源地とする震度7.6、最大級の能登半島地震が発生。支部の皆さんと固定電話がつながらず、現地へ行くこともできません。やっと携帯電話で副支部長とつながり、避難所で娘さんといることがわかり、人づてに皆さん命に別状はなしとわかりやっと一安心しましたが落ち着きません。

それにしてもつくづく珠洲に原発をつくらせなくてよかった。2月16日第3金曜日原発を考える女性の会のあと、珠洲の高屋の皆さんが2次避難をしている加賀市の旅館に、新婦人の県本部の皆さんとお見舞いに行くかとさそれれ、そこで珠洲原発反対の中心的役割を果たしていただいた、円龍寺の塚本真如住職夫妻や、高屋の方々にお会いし、原発をつくらせなくてよかった、ありがとうと固い握手。会えてよかったです。

2月18日には、穴水駅便に乗せてもらって、輪島の「ひなさん」と門前の支部長へ、会いに行きました。車でもすぐく遠かったです。運悪く会えませんでした。輪島に戻り、朝市の焼け跡、まるで広島原爆のあとのように胸が痛みました。どんなに苦しかったか。

会員訪問、同級生訪問しましたがなかなか会えませんが、よく長野県から家の片付けにきたという新宅さんに会い、逆におみやげをもらい、みんなにわけて、帰日も金沢駅まで乗せてもらって無事到着。私の身体は、道路の凸凹でゆれて戻らず、どうなるかと思いましたが、一晩寝て元に戻りました。「ひなさん」に自身の体験を書いてもらいました。共有したいと思います。みんなでつながって前進しましょう。



鏡 史朗 輪島市議のFB（1月30日）から転載

劇団なんじゃもんじゃ

「虫を殺してもハチが当たる」
殺生を嫌っていた農村の青年は
軍服を着て海を渡り、
いつしか鬼となっていた。



悔悟の記録

ひとり芝居

ある憲兵のものが語る――

第二次世界大戦中の中国で

328人を殺し、

1917人を逮捕・拷問・投獄した

元憲兵が語る「本当の戦争」。



ごあいさつ

戦 後50年の春、『ある憲兵の記録』(朝日文庫)に出会いました。生々しい土屋さんの体験に体が震え、さっそく山形県上山市の土屋芳雄さんを訪ねました。あの時代の生き証人として平和を語る土屋さんの目は厳しく私に突き刺さってきました。

「だんだん体がいうことを利かなくなった。あと何年かすれば仲間達はこの世から消えてしまう。本当のことを語る人間が少ないんだ。俺のかわりに語ってくれ」

そう言って土屋さんは沢山の資料を私に下さいましたが、2001年、享年91歳で永眠されました。土屋さんから渡された悔悟のバトンの重みをズシリと感じるこの頃です。



作・演出／ふじたあさや
出演／西尾舜三

時 2024年4月28日(日) 開場 13:30 開演 14:00

会 場 金沢市民芸術村 ドラマ工房 (金沢市大和町1-1)

座 席 大人 1,000円 中学・高校生 500円



*公演後、出演の西尾舜三さんとの交流会を芸術村「里山の家」でおこないます。

主催 戦争をさせない石川の会 <http://nomorewar-ishikawa.com/>
連絡先 09042262416 (事務局長 須藤春夫)